**メッセージのレジュメ**

**2021年6月6日（日）**

**聖書箇所：エステル記４章１２節～１４節**

**タイトル：「エステル記に見る神の救いのご計画②」**

・**１回目：神の選びとその中にある使命**

・**２回目：神の摂理**

・**３回目：エステル記に見る神の救いのご計画**

* 聖書が書かれた目的→

イエスが神の子キリストであり、イエス様を信じていのちを得るため（ヨハネ２０章３１節）

イエス様は、旧約聖書を成就するために来られた。

すなわちエステル記の物語の中に神様の救いのご計画が暗示されているということ。

**１．エステルに見るキリストの姿**

**エステル**：ユダヤ民族根絶の危機から救い出す救世主。

エステルは王妃でありその必要はなかったにも拘わらず、

自らのいのちと引き換えに王の前に出て、そのことを実行する。

**イエス様**：全人類を永遠の滅びから救い出す救世主。

イエス様は神の子でありその必要ななかったにも拘わらず、

罪によって滅びる人類のために自らのいのちをもって救いの道をつくられた。

**「まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのままです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。」（ヨハネ１２章２４節）**

**２．三日目にという言葉の意味すること**

**エステル**：命を賭してでも王の前に出ると決断し、同時にユダヤ民族に三日間の断食をお願いす

る。そして三日目に王の前に出ることが許され、王命によってユダヤ民族の命が助か

る。ユダヤ民族根絶の法令が出されてから三日目に助かった。

**イエス様**：人類は、罪によって永遠の死、滅びに定められていた。イエス様は、十字架において贖

いの死を遂げ、三日目に、王の王である神様によって死んだ者の初穂としてよみがえら

され、イエス様を信じる私たちにも永遠のいのちが約束された。

**３．王の裁きに見る神の正義**

**王**：ハマンの謀略を知ると、彼を容赦なく柱にかけた。

**神**：神様の御前には、すべてのことが明らかであり、その罪を裁かれる。ここに神の義がある。

ここに安心と希望を見出す。

４．**ハマンがかけられた「柱」**

**ハマン**：すべての謀略が暴かれて柱にかけられる。そこに悪が裁かれる正義を見た。

しかし同時に、私たちの内にもあるハマンの姿、その罪はどうなるのか？裁かれなければ

ならなかった。人間は神の義の前に震えおののくしかない。

**神様**：十字架において神の様の罪に対する裁き、神の正義が表された。と同時に、それは、どんな罪人をも救う神の愛であった。十字架において神の義と愛が表された。十字架においてエステル記における不完全な部分が補われ、成就した。

**「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせずに十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。」（ヘブル１２章２節）**